



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／佐々木将光 島根県津和野町教育委員会 派遣社会教育主事
椋本 博志 長崎県教育庁生涯学習課 参事

分科会の進め方

13:30~13:35

1 霧島おむすび自然学校～障がいのある人たちの野外活動の実践～

13:35~14:05

壹岐 博彦(宮崎県小林市) 霧島おむすび自然学校 事務局長

1995年発足のおむすび登山会から2008年霧島おむすび自然学校に改称し活動している任意団体である。知的障がいや発達障がいのある人たちを主な対象に、様々な野外活動を実践。障がい者の家庭生活や社会生活の楽しみや趣味につながること、成長や発達を支える力を身につけること(自立や社会参加へとつなぐ)、健常者と障がい者がお互いを認め合う関係を作り出すことを目指している。活動には登山やハイキング、カヤック、沢登り、ほかに自然遊びや料理体験がある。成果として当事者にはコミュニケーション力や社会性の伸長が、保護者は積極的参加と家族間の繋がりの深まりが、支援者には障がい者への仲間意識の芽生えや障がい者を共に楽しむ相手として見る意識の変化があった。

2 高校生による地元再発見 ～「民家の甲子園」愛媛県大会がもたらす効果～

14:10~14:40

ところ 虎子(愛媛県西条市) 「民家の甲子園」愛媛県大会実行委員会 委員

今年度で第17回を迎える「民家の甲子園」は、高校生に日本の原風景である民家や自然、文化などふるさとの魅力を再発見し継承してほしいとの願いをこめて企画された。本実行委員会は、第15回大会から地元新聞社や高等学校P.T.A連合会の協力を得て運営を開始。「表現することは、人を動かす力になる」と県大会審査委員の講評にある通り、平成30年度開催の16回全国大会における最高賞受賞をはじめ、本大会以外の場でも県大会チームメンバーの多方面での活躍報告が相次いでいる。

ティータイム

14:40~15:05

3 「勝央町カタルバ講座」の実践・手法～中高生が地域で輝く出番づくり～

15:05~15:35

三戸 祥恵(岡山県勝央町) 勝央町教育委員会 社会教育主事(主査)

注目は、公民館を拠点に中高生が中心になり、主体的にまちづくりや地域課題の解決に向けて活躍する仕組です。中高生が地域で役割を持ち、自ら行動し、創り上げていくことを目指しています。主催は教育委員会、事務局は職員が担当、対象は町内在住、通学の中高校生です。活動は、参加者で話し合い、課題発見し、企画・立案・実施するのです。既に、「図書館フェスティバル」での「青空カフェ」や「公民館ロビー活用プロジェクト」、「Enjoy!子どもの食生活プロジェクト」等を実現しています。

4 舞台体験を通した子どもたちの居場所づくり・地域づくりの実際 ～子どもも大人もつながる新たなコミュニティの構築～

15:40~16:10

田中 晶子(大阪府大阪狭山市) 大阪狭山ギムナーの会 代表

注目は、中・高校生の舞台を通した人づくりの場です。2005年7月に発足。大阪狭山市を中心とした中・高校生の居場所「表現俱楽部うどい(踊り)」の舞台ワークショップ(企画・運営・舞台制作)や、「うどい」卒業生メンバー(大学生・社会人)による「さやま未来プランナー」のまちづくり事業のサポート活動です。市立公民館事業としてスタートして14年目、沖縄・和歌山・佐賀県や吹田市・枚方市へと交流の輪が広がっています。